

運用指針

第2条③

供用までの期間を短縮したことによる費用の縮減

北海道縦貫自動車道

オトシベ ヤクモ
(落部IC～八雲IC)の早期供用

当初計画

【① 用地取得(1箇所)】

- ・土地収用法による用地取得(平成21年3月)を予定。

【② 柏木川橋】

- ・当該区間内に収用地があり、用地収用後にA2橋台施工を行う。
- ・A2橋台完成後にPC3径間連続桁橋の上部工架設を行う。

供用予定日:平成22年11月30日

経営努力による変更

【① 用地取得(1箇所)】

- ・収用委員会への資料提出や対応を速やかに実施し、早期に収用裁決され、また代執行も避けられたことから、平成20年3月に用地取得。(約12ヶ月短縮)

【② 柏木川橋】

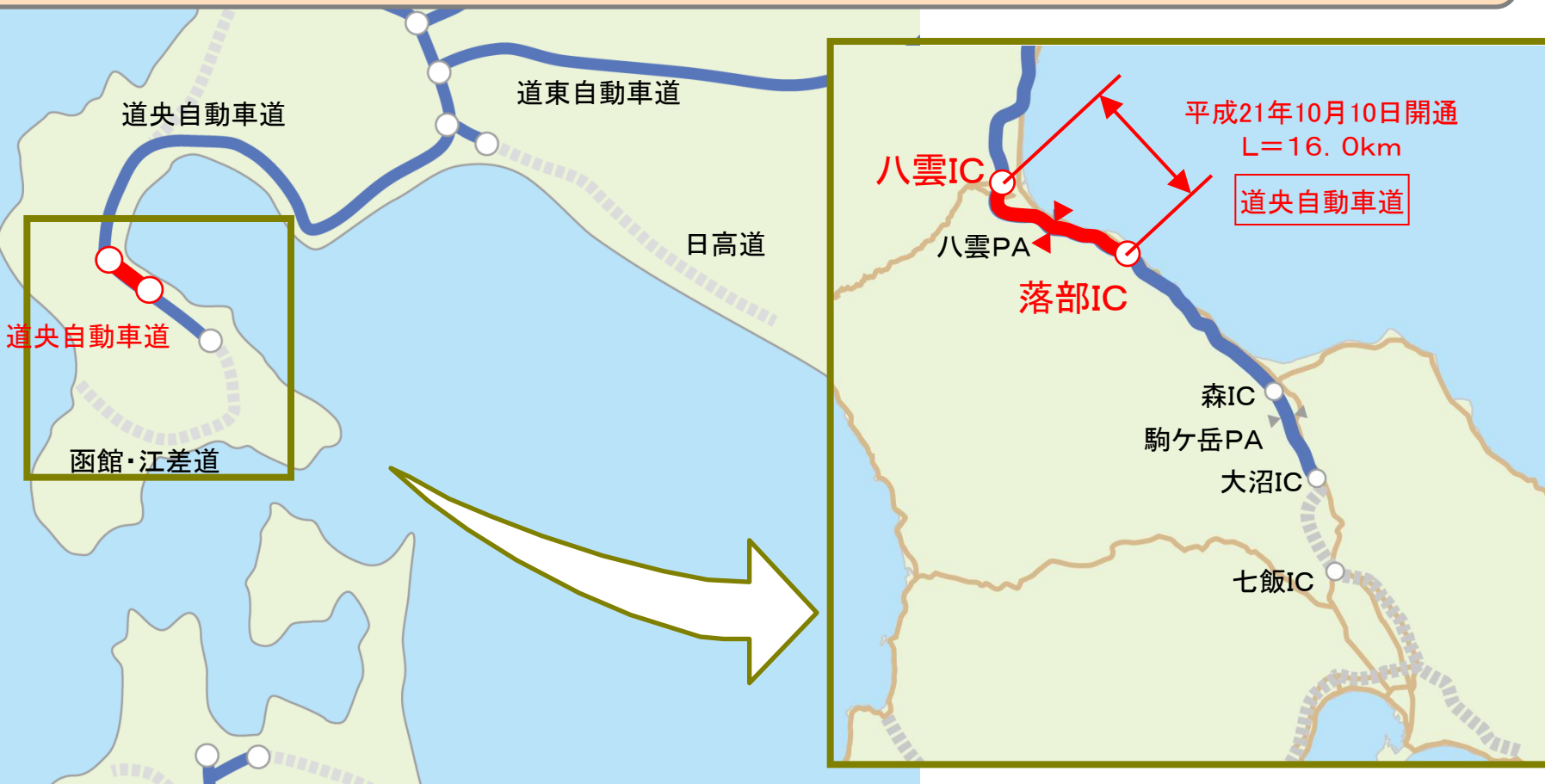
- ・収用地内以外のA1橋台、P1, P2橋脚部分の上部工と収用地に係るP2, A2間の上部工を分割して施工し、工期を短縮。(約2ヶ月短縮)

供用日:平成21年10月10日
(416日の早期供用)

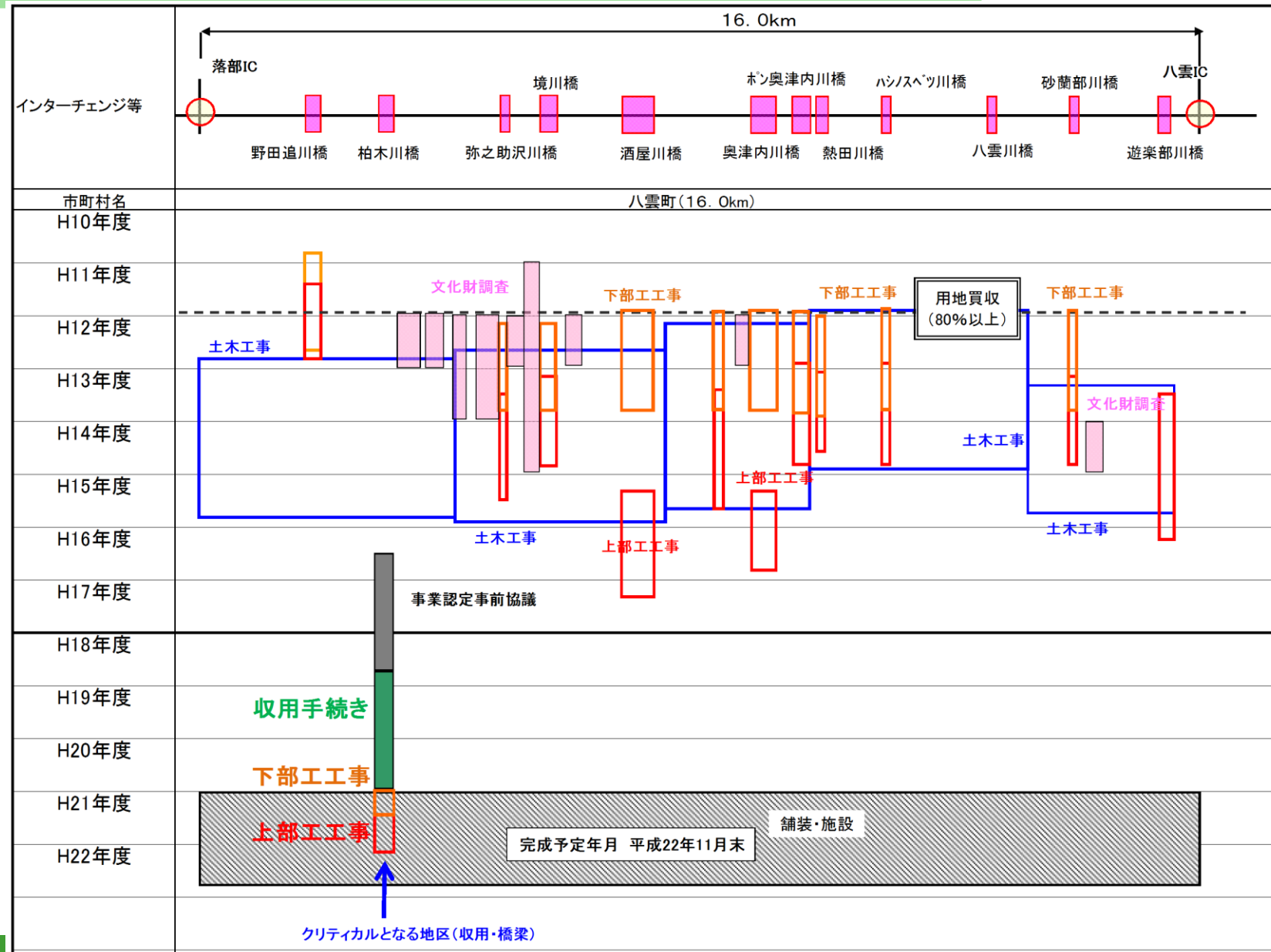
道央自動車道 落部IC～八雲IC位置図

道央自動車道 落部IC～八雲IC間の路線概要

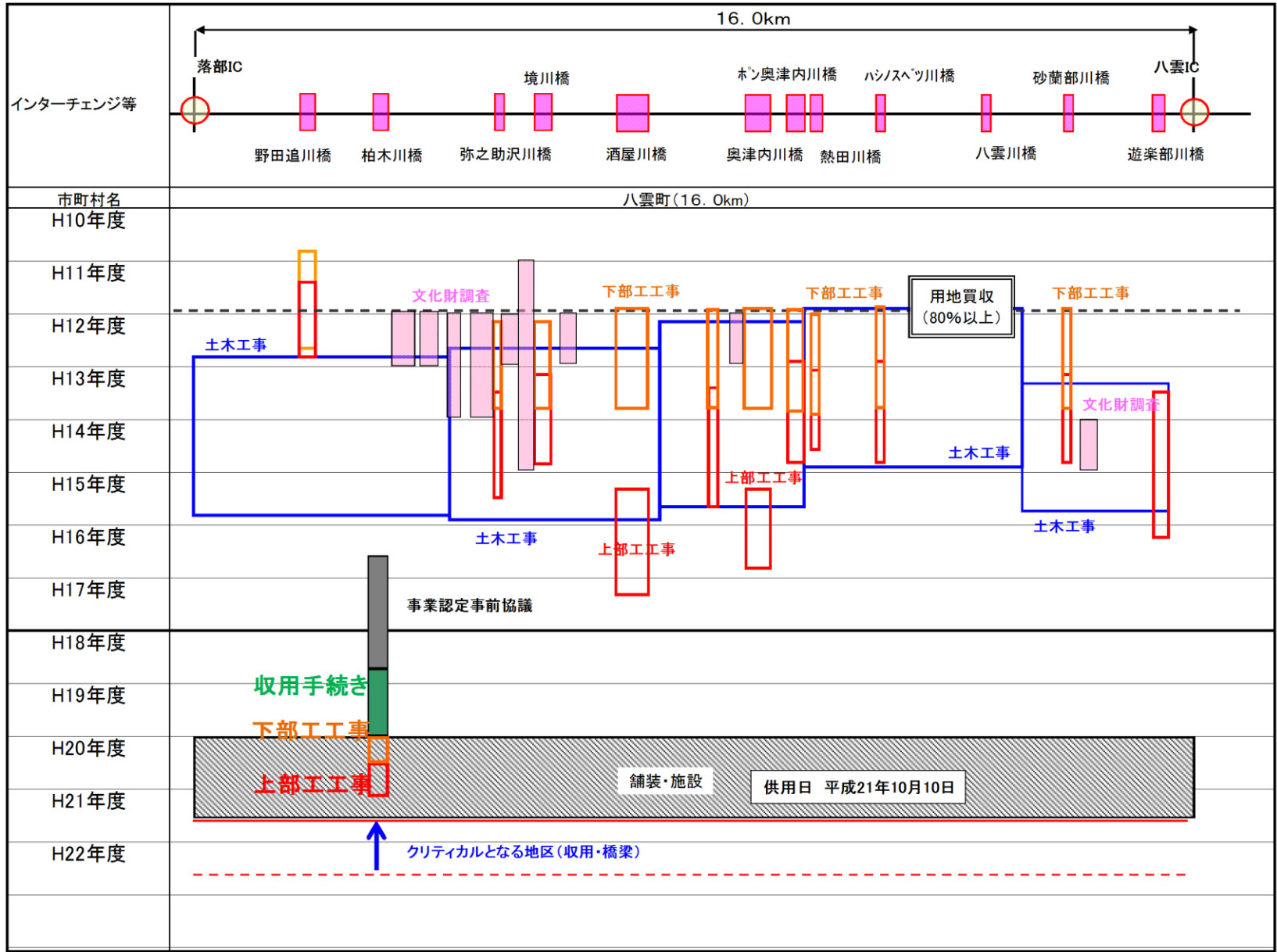
- ・道央自動車道は、道南と道央さらには道北を結ぶ高速自動車国道でH25.6末現在の開通延長は約444km
- ・道央自動車道 落部～八雲間(延長約16km)は平成21年10月10日に開通
- ・主に道央圏から函館方面へのアクセスが向上し、観光行動圏の拡大、地域の活性化や交流の促進に寄与



当初工程表(落部IC~八雲IC)

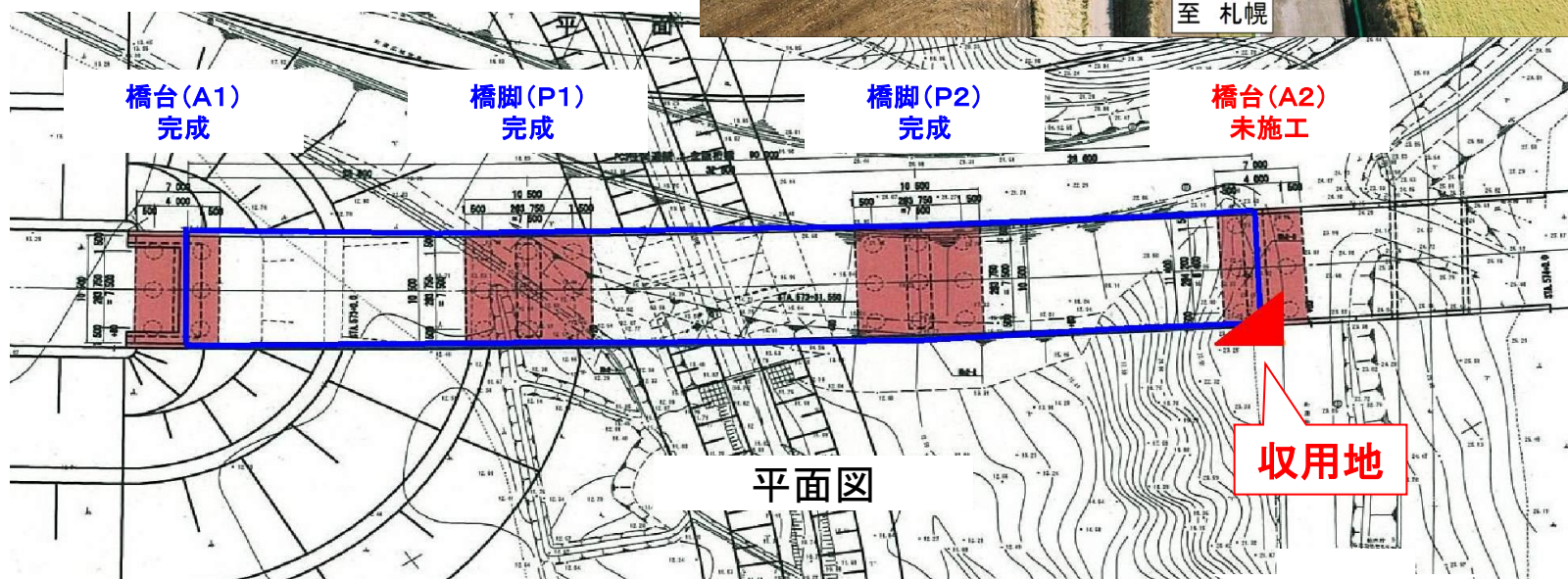
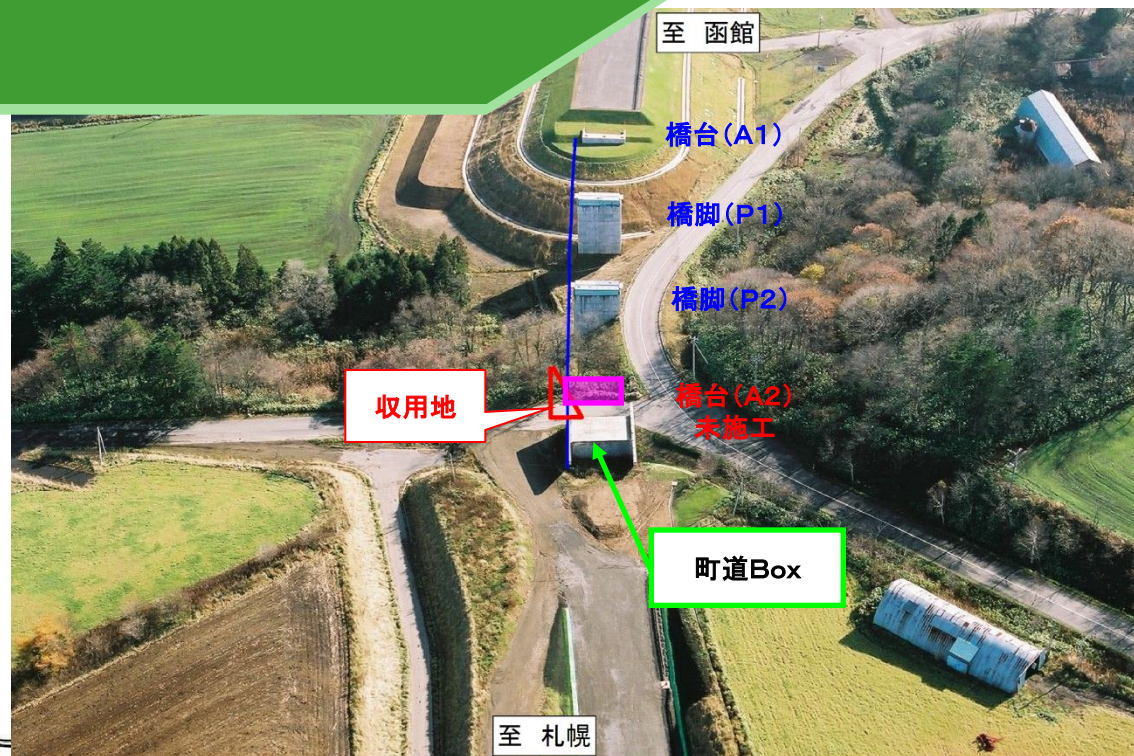


実績工程表(落部IC~八雲IC)



現地状況

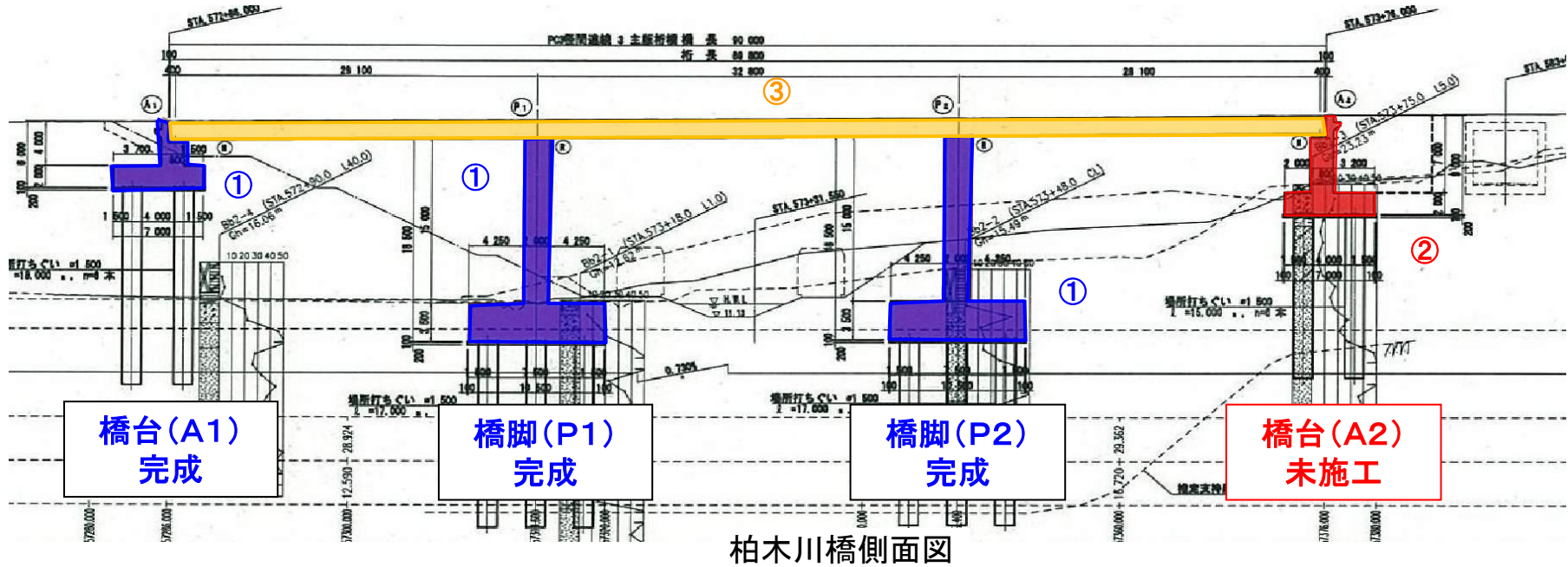
- ・柏木川橋(橋長90m)の橋台(A2)付近に、収用地(約9㎡)が存在。地権者との交渉は非常に難航している状況。
- ・橋台A1、橋脚P1、P2は施工完了。
- ・橋台A2は用地が取得できないため、未着工。



工期短縮の取組み②(上部工期間の短縮)

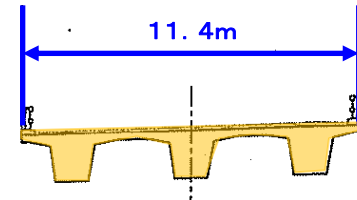
◆当初の施工順序

○柏木川橋の上部工形式 PC3径間連続3主版桁橋



【施工順序】

- ①(青) A1橋台、P1、P2橋脚の下部工は完成
- ②(赤) 用地取得後、A2橋台を施工
- ③(黄) 上部工を施工

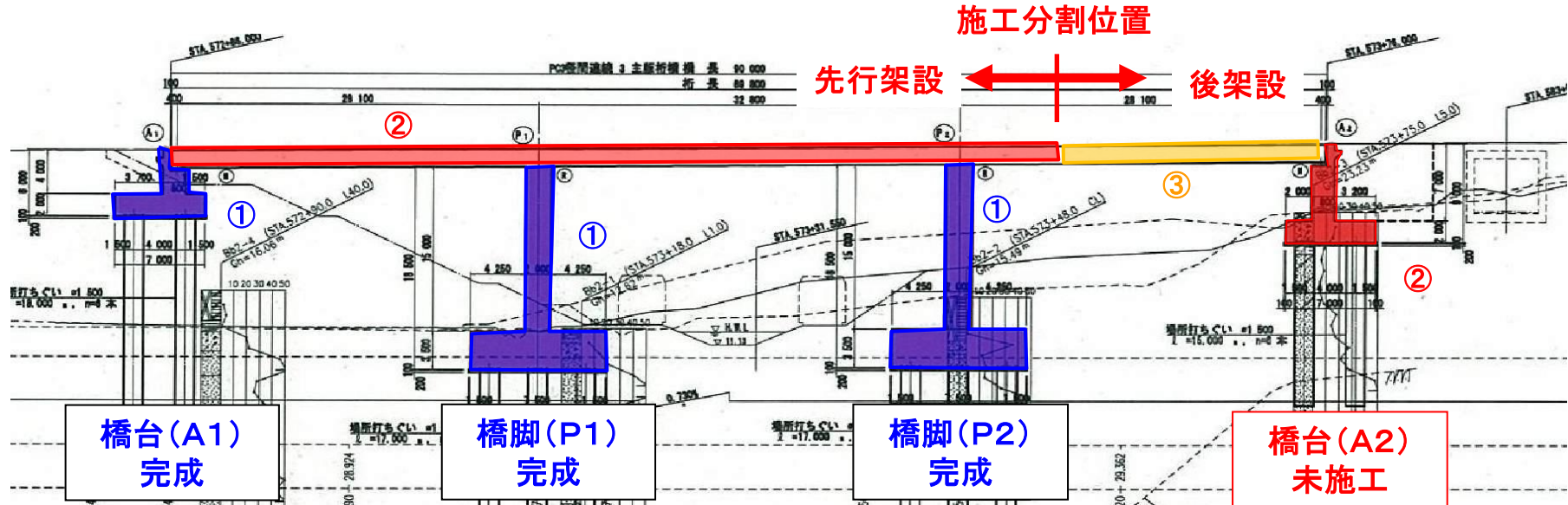


柏木川橋断面図

工期短縮の取組み②(上部工期間の短縮)

◆上部工の分割施工

A1橋台～P2橋脚とP2橋脚～A2橋台の上部工を分割して施工する方法で、工程短縮ができないか検討



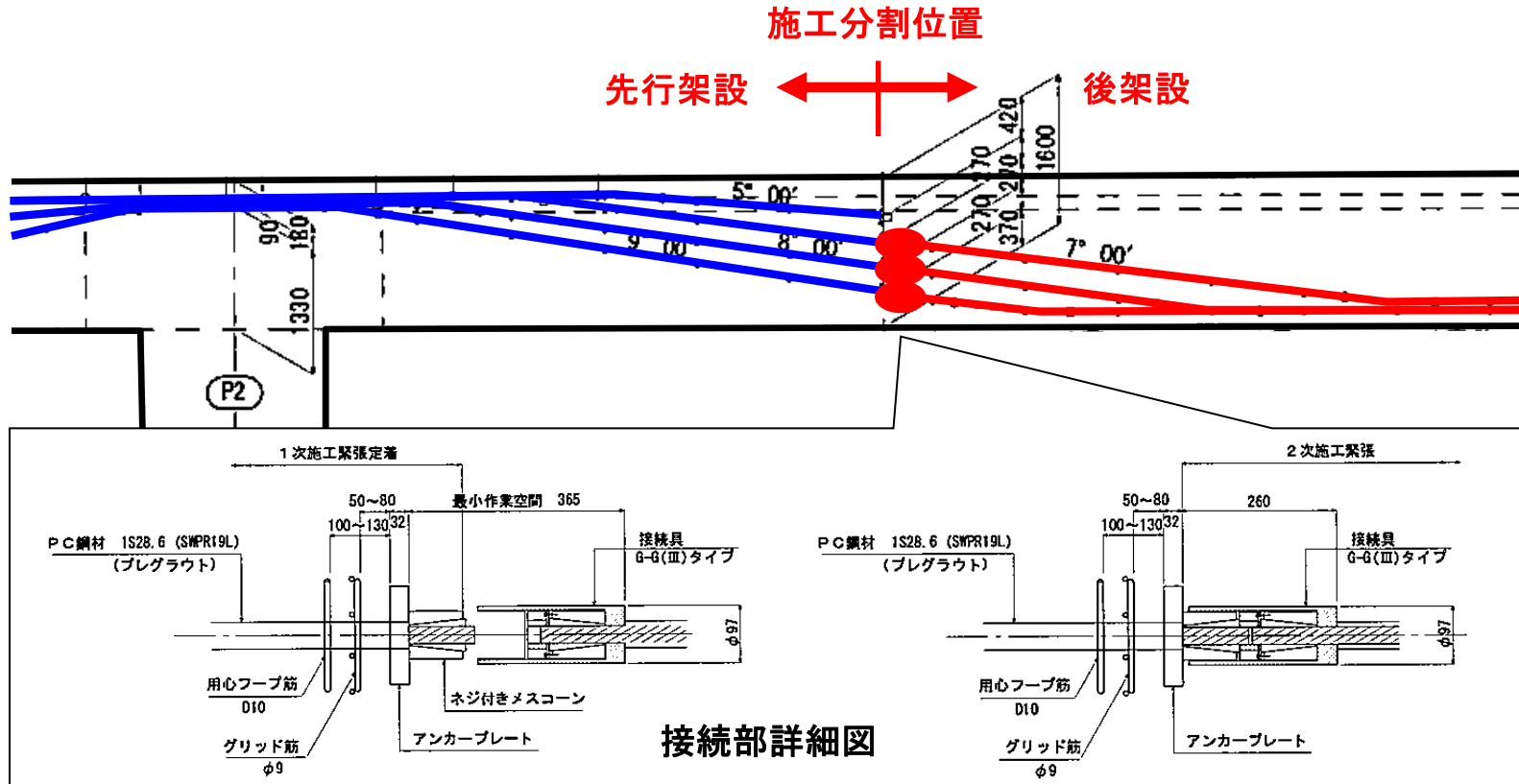
【施工順序】

- ①(青) A1橋台、P1、P2橋脚の下部工は完成
- ②(赤) 用地取得後、A2橋台と同時にA1～P2の上部工を施工
- ③(黄) P2～A2の上部工を施工

- ・分割検討に際し設計面では、応力状態から最適分割位置の検討(主桁自重による曲げモーメントの正曲げと負曲げが反転する位置とし、曲げモーメントの影響を受けない箇所で分割)
- ・分割部分での配筋検討を実施し分割を行なった事による弱点を克服。

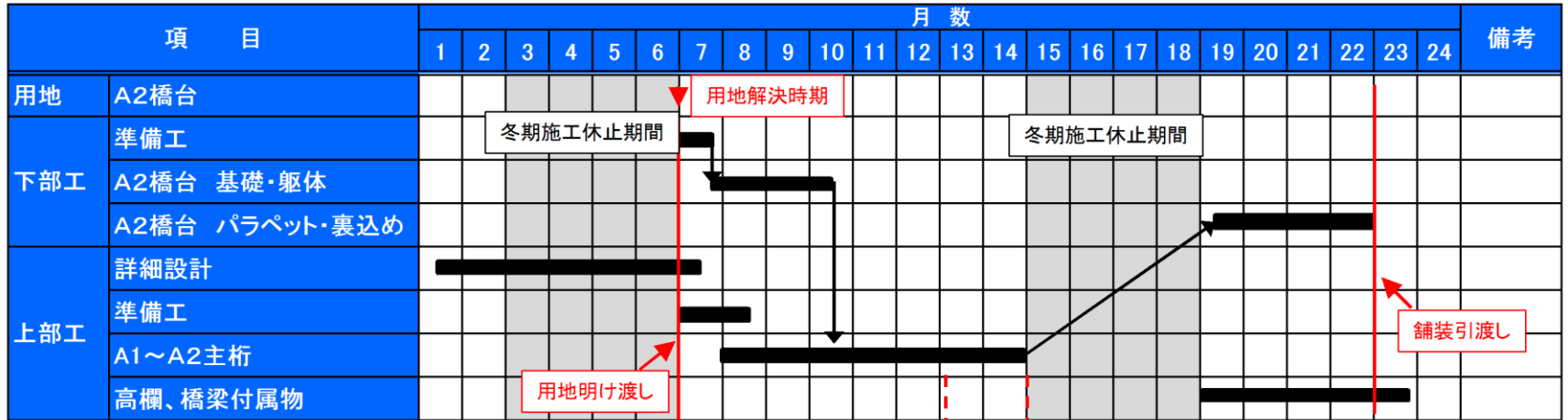
工期短縮の取組み②(上部工期間の短縮)

- ・分割位置では、PCケーブルを専用の接続具を用いて接続し、主桁およびPCケーブルの連続化を図り、3径間連続桁を完成させる

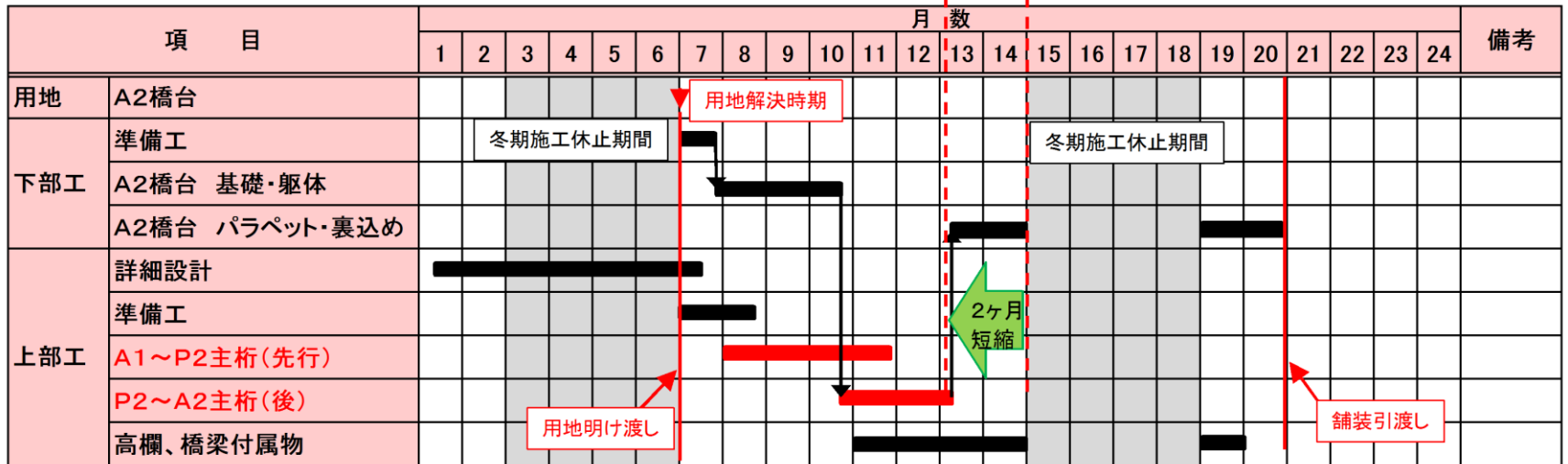


工期短縮の取組み②(上部工期間の短縮)

当初工程



変更工程



上部工工事で約2ヶ月の短縮

経営努力要件適合性の認定について

収用手続きに関する対応を迅速に行い、また、橋梁上部工を分割施工することにより、**供用までの期間を短縮したものである。**

運用指針第2条第1項第3号に該当

約1年2ヶ月の工期短縮による一般管理費、その他費及び金利の縮減



会社の経営努力によるものであると認定

助成金交付における経営努力要件適合性の認定に関する運用指針（抜粋）

第二条 経営努力要件適合性の認定基準

機構は、助成金交付申請をした高速道路会社の主体的かつ積極的な努力による次の各号に掲げる費用の縮減（適正な品質や管理水準を確保したものに限る。）について、経営努力要件適合性の認定を行うものとする。

- ③供用までの期間を短縮したことによる費用の縮減